



**2023年  
4月号**

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者  
司祭 瀬山 会治

印刷所  
文明堂印刷所

# ビジョン・ミニッション

執事 ルカ 宮田 裕三



「宣教しないとダメですか」はじめは何を言われているのかわかりませんでした。20年前の私だったら「何を言っているんですか?」「教会とは?」「キリスト教とは?」とすぐに反応していたと思います。「イエスは…」「聖書には…」とならないのが私らしいところですね。

日々の黙想の中でこの言葉の意味を神と対話し続けました。やがてこの言葉は、ターミナルケアを必要としている教会の心の叫び

声だと気がつきました。しばらくして「稼働削減」「経費

の削減」という言葉が聞かれるようになった。私たちが教会の成長をのぞき、神の宣教に参与するため、イエス・キリストを証し、

この世界の出来事に関心を寄せて祈り、地域社会の課題を共に担うこと、そして関わることが教会の姿また使命として求められています。しかし、すでにその体力も気力も経済力も困難な状況になり、心の癒しを教会に求めることで精一杯です。

終活ブームが行きわたり、ターミナルケアが身近になってきました。教会も同じようにターミナルケアが必要になってきたのだと思います。教会のターミナルケアは10年や20年と

いう長い時間になるでしょう。私たちが想像もしてこなかった教会のターミナルケアという概念をどのように受け止めるのかはまだ未知数です。まだ言語化も出来ていません。これからの研究課題です。

従来通りに宣教活動を行える教会は、神の宣教に参与する教会としてこれまで以上にその働きを担うことに力を注ぎ、地域社会の中でイエス・キリストを証していく存在として起こされていくことではない。それが難しくなってきた教会は、参拝施設としての教会施設を維持して、そこに集う人びとが最期の時までその信仰を全うできるように、ていねいな牧会をしていくことが、いま求められているのだと思います。

医療は命を支えること、少しでも長く生きることが前提に働いてきました。しかし、その人の命と尊厳を大切にしながら、最期の時を豊かに迎えることを選択肢に加えました。それまでの医療行為と違う方向性が示されたとも言えるでしょう。

10年前の2012年日本聖公会宣教協議会において「ていねいな牧会」という言葉が示されました。教会をターミナルケアする。これは「異なる教会対策」「新しい牧会」の姿かもしれません。それは新しいビジョンともいえるでしょう。大きな挑戦でもあり、ミッションでもあります。イエスの復活を信じる私たちは、その死の先にある復活を信じて、イエス・キリストとともに信仰の旅をともに歩みましょう。

徳島インスマヌエル教会・徳島聖テモテ教会・富岡キリスト教会・鳴門聖パウロ教会 牧師補